

## 安全データシート (SDS)

## 1. 物質または混合物及び会社情報

**製品名** : デービーボンドDB 5653H

製品の名称 : アクリル樹脂系エマルジョン形接着剤  
 会社名 : ダイアボンド工業株式会社  
 住所 : 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 4085  
 担当部門 : 品質管理課  
 電話番号 : 046-285-0985  
 Fax 番号 : 046-286-4292  
 メールアドレス : dbtec@dbbond.co.jp  
 緊急連絡先 : 046-285-0985 (担当部門に同じ)  
 接着剤の推奨用途と使用上の制限 : 接着用途に限る

## 2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響	:	特になし
GHS分類		
物理化学的危険性	:	分類対象外
健康に対する有害性		
急性毒性 (経口)		区分外
急性毒性 (経皮)		区分外
急性毒性 (吸入 : ガス)		分類対象外
急性毒性 (吸入 : 蒸気)		区分外
急性毒性 (吸入 : 粉塵・ミスト)		分類対象外
皮膚腐食性/刺激性		区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分2 A
呼吸器感作性		分類対象外
皮膚感作性		区分外
生殖細胞変異原性		区分外
発がん性		区分外
生殖毒性		区分1 A
特定標的臓器毒性 (単回暴露)		区分1
特定標的臓器毒性 (反復暴露)		区分1
吸引性呼吸器有害性		分類対象外
環境に対する有害性		
水生環境有害性 (短期間)		区分3
水生環境有害性 (長期間)		区分外
オゾン層への有害性		分類対象外

※上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

ラベル要素

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 皮膚刺激  
 重篤な眼への刺激  
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
 臓器の障害（呼吸器系、中枢神経系）  
 長期にわたる又は反復暴露による臓器の障害（肝臓、腎臓、中枢神経系）  
 水生生物に有害

## 注意書き [安全対策]

取扱い作業に際しては、SDS取扱説明書などで注意事項の確認をする事。  
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。  
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
 取扱後は手を良く洗うこと。  
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。  
 環境への放出を避けること。

## [救急処置]

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。むりに吐かせないこと。  
 眼に入った場合：眼をこすったり無理にあげさせてはならない。直ちに医師に連絡すること。  
 皮膚等に付着した場合：皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合は医師の手当を受けること。  
 気分が悪い時は、医師の診断・手当を受けること。  
 漏出物を回収すること。

## [保管]

涼しく換気の良い場所で、施錠して保管すること。  
 5℃以上に保管して凍結をさせない事

## [廃棄]

内容物や容器を、地方自治体の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託する。

## 3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名 : アクリル樹脂系エマルジョン形接着剤

主成分 : アクリル樹脂等

成分及び含有量

化学名又は一般名	CAS No.	PRTR 法				労働安全衛生法		含有率 (%)
		特定一種	一種	二種	非該当	該当	非該当	
アクリル樹脂	社外秘				○		○	40～60
トルエン	108-88-3		○			○		3.5
アンモニア	1336-21-6				○	△		0.1 未満
水	7732-18-5				○		○	40～60
合計								100%

△：規制物質であるが、閾値未満の添加量であるため三角とした。

## 4.応急処置

- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。むりに吐かせないこと。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを使用していて容易に外せる場合は外すこと。直ちに医師に連絡をすること。
- 皮膚に付着した場合：皮膚を多量の水と石鹼で洗う。皮膚刺激が生じた場合は医師の手当を受けること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させること。

## 5.火災時の措置

- 消火剤：水（初期消火）、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂
- 特定の消火方法：付近の着火源を絶ち、保護具を着用して風上から消火する。
- 初期消火には、水散布、粉末、炭酸ガス、泡消火剤、乾燥砂等を用いる。
- 但し、火災が少しでも大きくなった場合は、溶融した製品に水散布すると、熱水又は溶融した製品が飛び散る事があるので、この場合は泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- 消火活動は必ず保護具を着用して、風上から行なう。消火後は、製品の内部まで冷却されるまでロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
- 消火を行なう者の保護：保護衣を着用するほか、状況によっては不浸透性手袋、呼吸保護具、保護眼鏡等の保護具を着用する。

## 6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項：漏出物は直接皮膚に触れないようにする。また、漏出物の蒸気は吸わない。必ず保護具を着用すること。
- 環境に対する注意事項：現在のところ知見無し。
- 除去方法：風下の人を退避させる。漏出した場所の周囲にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。消火用器材を準備する。作業の際には、必ず保護具を着用し風上から行なう。少量の場合は、おがくず、ウエス、砂等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。多量の場合は、土砂、土のうなどで流出を防止した上で、空容器に回収する。回収には、火花を発生しない安全シャベルなどを使用すること。廃棄物などは関係法規に基づいて処理すること。流出その他事故が発生した場合は、警察署、消防署、都道府県市町村の公害関連部署等、河川管理局、水道局、保健所、農協、漁協等の、関連機関に連絡する。

## 7.取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策：火気注意。
- 炎、火花、高温体との接近、その他点火源となる恐れのある機械等の使用厳禁。また、静電気対策として、液体の輸送、汲み取り、攪拌等の装置は必ずアースを取ること。
- 取り扱いには換気の良い場所で行なう。
- 眼、皮膚への接触を防止するため、保護めがね、保護手袋を使用する。
- スプレーミストの発生する作業の場合は、フィルター付の保護マスクを着用する。皮張り防止のため容器はその都度密栓する。
- 作業中のコンタクトレンズの着用は好ましくない。
- 注意事項：局所排気装置等、排気のための装置を設置する。
- この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- 安全取扱い注意事項：特になし。
- 保管

- 適切な保管条件：直射日光を避け、容器を密閉し 5℃～35℃の冷暗所に保管する。  
5℃以下で保管すると凍結し使用できなくなるおそれがあるため。  
保管温度厳守。
- 安全な容器包装材料：弊社より出荷した包装容器を使用すること。
- その他：貯蔵（廃棄のための保管を含む）及び取扱いの技術上の基準は、所轄の市町村条例や関連する法規制の定めるところに従う。

## 8. 暴露防止及び人に対する保護措置

設備対策：局所排気装置等、排気の為の装置を設置することが望ましい。

化学名又は一般名	アンモニア	トルエン
管理濃度	設定なし	20ppm
許容濃度 日本産業衛生学会 (2012年度版)	25ppm 17mg/m <sup>3</sup>	50ppm 188mg/m <sup>3</sup>
ACGIH (TLV) (2012年度版) STEEL	40mg/m <sup>3</sup>	20ppm 知見無し

### 保護具

- 呼吸保護具：状況により有機ガス用防毒マスクを着用する。
- 保護眼鏡：普通眼鏡、側板付き普通眼鏡、ゴーグル型保護眼鏡を着用する。
- 保護手袋：綿製手袋、耐熱手袋を着用する。
- 保護衣：長袖作業着、安全靴を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理的状态

- 形状：エマルジョン（20℃中）
- 色：乳白色
- 臭い：特徴的な臭気がある（20℃中）
- pH：6～10

### 物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲

- 沸点：100℃以上
- 引火点：適用せず
- 発火点：適用せず
- 蒸気密度：データなし

### 溶解性

溶媒に対する溶解性：水で無限大に希釈可能

- 比重：0.9～1.1（20℃）

## 10. 安定性及び反応性

- 安定性：通常の手扱いにおいては安定。
- 危険有害反応可能性：通常の手扱いにおいては安定。
- 避けるべき条件：5℃以下にして接着剤を凍結させないこと。
- 混触危険物質：知見なし。
- 危険有害な分解生成物：知見なし。

## 11. 有害性情報

	トルエン	アンモニア
急性毒性ラット経口（LD50）	4800 mg/kg	350mg/Kg

急性毒性（経口）	区分 5	区分 4
急性毒性（経皮）	区分外	分類できない
急性毒性（吸入:ガス）	分類対象外	分類対象外
急性毒性（吸入:蒸気）	区分 4	分類できない
急性毒性（吸入:粉塵:ミスト）	分類できない	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分 2	区分 1A
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B	区分 1
呼吸器感受性	分類できない	分類できない
又は皮膚感受性	区分外	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外	分類できない
発がん性	区分外	分類できない
生殖毒性	区分 1A	分類できない
標的臓器/全身毒性（単回暴露）	区分 1(中枢神経系) 区分 3(気道刺激) 区分 3(麻酔作用)	区分 2 (呼吸器系)
標的臓器/全身毒性（反腹暴露）	区分 1(中枢神経系) 区分 1(腎臓、肝臓)	区分 2 (呼吸器系)
吸引性呼吸器有害性	区分 1	分類できない

## 12.環境影響情報

生体毒性	: 混合物としての知見無し
残留性・分解性	: 混合物としての知見無し
生体蓄積性	: 混合物としての知見無し
土壌中の移動性	: 混合物としての知見無し

## 13.廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 産業廃棄物として許可の受けた専門業者に委託する。  
 焼却時に有害ガスの発生を伴うので、焼却設備には排ガス処理設備が必要である。
- 汚染容器・包装 : 産業廃棄物として許可を受けた専門業者に委託する。
- その他、廃棄物の処理及び清掃に関する法規制の定めるところに従う。

## 14.輸送上の注意

- 転倒、落下、損傷の無いように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。  
 包装が破損しないように、水濡れや乱暴な取扱いをしない。

国連分類	: 該当せず
国連番号	: 該当せず
容器等級	: 該当せず
パッキンググループ	: 該当せず

## 15.適用法令（化学製品に特に適用される法規制）

- 労働安全衛生法 : 引火性のもの・通知対象化学物質 トルエン  
 アンモニア（但し、含有量が規制値以下なので該当せず）
- 有機溶剤中毒予防規則 : 第二種有機溶剤含有量 5% 以下のため該当せず
- 消防法 : 該当せず
- PRTR 法 : トルエン
- 船舶安全法 : 該当せず
- その他、地域の法規制の定めるところに従う。

## 16.その他の情報

参考資料 : 国際化学物質安全性カード (ICSC)  
有機溶剤作業主任者テキスト  
安全データシート作成指針 (日本化学工業協会)  
接着剤の安全データシート作成手引き (日本接着剤工業会)  
溶剤ポケットブック (オーム社)  
JIS Z 7250 (日本規格協会)  
原材料メーカーの安全データシート

危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取扱いには充分注意して下さい。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常の実用を対象としたもので、特別な取扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱い願います。

# 特定の化学物質不使用情報シート

会社名                   ダイアボンド工業株式会社  
 住 所                   神奈川県愛甲郡愛川町中津 4085  
 担当部門               厚木工場 品質管理課  
 電話番号   046-285-0985   FAX 番号   046-286-4292  
 [管理番号]               作成                   2008年05月16日

[製品名]                   デービーボンド DB 5653H

## [本シートの使用法]

弊社では平素より製品の物質管理及び情報収集に努めております。また情報は国内法の規定に従い SDS に記載して、お客様にお届けして参りました。しかし海外法等の規定から、特定の化学物質の詳細な含有情報をご要求頂く事が増えております。本シートはこのようなご要求にお答えして、SDS を補完する目的で作成しました。

## [製品中の特定の化学物質含有調査]

主要海外法規の規制物質を中心に調査いたしました。

物質群名	使用の有無	分析値
カドミウム及びその化合物	無	
六価クロム化合物	無	
鉛及びその化合物	無	
水銀及びその化合物	無	
TBT類、TPT類	無	
TBTO	無	
塩化パラフィン(短鎖)	無	
PBB類	無	
PBDE類	無	
PCB類	無	
ポリ塩化ナフタレン(塩素数が3以上)	無	
アスベスト類	無	
特定アゾ化合物	無	
オゾン層破壊物質	無	
放射性物質	無	
ホルマリン	無	

- \* 意図的に添加したことでの使用の有無を記載しました。
- \* 分析をおこなっている物については分析値として記載しています。

[その他]   以下の国内法上管理要求されている物質の含有量は安全データシート(SDS)を参照下さい。

◎化管法   ◎安衛法(通知対象物質)   ◎毒劇法(毒劇物)

本製品は下記国内法で製造・輸入を禁止されている物質を意図的に添加しておりません。

◎ 化審法(第1種特定化学物質)   ◎安衛法(製造禁止物質)   ◎毒劇法(特定毒物)